

「広域人事だより」＜②広域人事異動終了者＞ 執筆協力者

No	管内名	市町村名	学校名	氏 名	広域人事異動先管内・所属等				広域人事 終了年月日
					区分	管内名	市町村名	学校名	
5	胆振	室蘭市	みなと小	川久保 靖	離島 (中堅)	檜山	奥尻町	奥尻小	R5.3.31
6	日高	浦河町	浦河第二中	小関 雅史	若手	空知	岩見沢市	明成中	R2.3.31
7	日高	平取町	平取養護学校	高野 真梨子	離島 (若手)	檜山	奥尻町	奥尻小	R5.3.31
8	渡島	七飯町	藤城小	木野田 香織	中堅	檜山	厚沢部町	厚沢部小	R5.3.31

(広域人事終了者)

氏名	川久保 靖	現任校	室蘭市立みなと小学校（胆振）	前任校	奥尻町立奥尻小学校（檜山）
----	-------	-----	----------------	-----	---------------

○地域・学校の様子（奥尻小）

奥尻島は、北海道南西部の日本海上にあり、面積は142.97km²（ほぼ洞爺湖2個分くらい）あります。澄みきった美しい海の青は、「奥尻ブルー」と呼ばれています。

海を見ると、ウニがいたるところに見えます。贅沢にも、島のカラスはウニやアワビを食べ、道のいたるところに「殻」を散乱させます。そんな状況であるにもかかわらず、島の人たちは「ウニやアワビは全然取れなくなった」と言います。今や、「育てる漁業」にどんどん切り替わってきているようです。

私の勤めていた奥尻小学校は、3年間を通して45名前後の児童がいました。昔からの島民が6割、2～3年ごとの転勤があるご家庭から4割くらいで構成されていました。大人が多い環境で育っているせいか、おとなしく控えめで、落ち着いた子どもが多いと感じました。

○勤務状況（奥尻小）

1年目は3・4年生の担任（複式）をしました。3年生9名、4年生4名の、合わせて13名おりました。初めての複式だったため、戸惑うこともありましたが、周りの人たちのサポートのおかげで何とか終えることができました。

2年目は3年生担任（4名）でした。単学年かつ少人数なので、手厚く、フットワーク軽く仕事ができ、とても充実した1年間でした。3年目は6年生特別支援担任（1名）でした。初の「特別支援担任」でしたが、周りのサポートのおかげで自己研鑽することができました。

○広域人事により経験できたこと

全校児童が45名前後と少人数なので、個々に合わせた指導が深くでき、達成感がありました。また、「管内」が変わると、仕事の内容や地域の反応も違い、新しい視点でものを見ることができるようになったことが大きかったです。

また、奥尻島は本当に自然に恵まれた土地であったので、「自然と調和して生活する」ことの大切さを改めて認識することができました。



ギンリョウソウ

○広域人事期間中に苦労したこと

① 冬の奥尻島

春・夏・秋、と3つの季節どれも素晴らしいのですが、唯一「冬」は厳しかったです。冬は海が荒れ、荒れるとフェリーが出ません。そうすると、島の食糧事情が一気に悪くなります。具体的には生鮮食料品がきれいになくなります。（冷凍ものはたくさんあります）欠航が3日続くこともしばしばあります。また、越波といって、波が岸壁を越え、道路にまでかかります。そうすると、家にこもっているしかありません。天候には勝てません。

② 島外への移動

自家用車をフェリーに積むのであれば問題ないのですが、公共交通機関を使うと極めてアクセスが悪いのです。島外に出る、島に戻るにも、何日も前から天気図とにらめっこをします。予報が悪くて、予定を繰り上げて島に戻ったこともありました。そのため、修学旅行は6年生では「2泊」の予定ですが、2年連続、「3泊」になりました。（出られない、帰ってこられない、という可能性があったので。）



ぶなの大木の前で

○広域人事のやりがいや魅力を伝えるメッセージ

交流人事で「離島」に赴任したことは、これまでの生き方の大きな転機となりました。豊かな自然に恵まれ、自然とともに暮らす生活は、「持続可能な社会」を成立させるための大きなヒントになると思います。

(広域人事終了者)

氏名	小関 雅史	現任校	浦河町立浦河第二中学校（日高）	前任校	岩見沢市立明成中学校（空知）
----	-------	-----	-----------------	-----	----------------

○現任校での勤務状況

空知管内での広域人事期間が終了となり、岩見沢市立明成中学校から新冠町立新冠中学校に異動となりました。新冠中学校では空知の経験を活かし、1年生担任から卒業担任まで3年間持ち上がり、無事卒業させることができました。分掌では研修や教務主任などを担当し、ミドルリーダーという自覚を持ち仕事をしました。その後、教頭に昇任し、浦河町立浦河第二中学校に異動となりました。浦河第二中学校は全校生徒20名の学校で浦河東部小学校との連携や、自治会、地域とのつながりの強い学校です。現在、広域人事期間が終わってから4年目です。



○広域人事により経験できたこと

明成中学校は「明成スタイル」と呼ばれる全教科で統一した授業のスタイルで行われています。生徒の授業アンケートを見ても「どの教科も流れが同じなので安心して授業が受けられる」と好評です。その土壌となっているのは「ピア・サポート」でした。話の聞き方など人間関係を良好にするためのスキルを学び、授業などで活用されていきます。相手の考えに受容・共感することで温かい学級の雰囲気となり、話し合いや教え合いが自然と生まれます。その結果、全国学力学習状況調査でも小学校の時の結果から大幅に改善し、全国平均以上の学力となりました。

また、分掌がグループ制になっていて、グループ内でお互いの提案文書を職員会議前に話し合うことで仕事内容がわかり、お互いの先生をサポートできる体制が整っています。学年でもたくさん話をしながら進めることができるので、学年やグループで一緒に仕事をできているという一体感があり、安心して仕事ことができました。

校内には教頭昇任候補者選考を受検する先生や教頭昇任登録残となっている先生がいて、「いずれは自分も」という先生方も多いように感じました。そういう環境に身を置いていたため、私自身も教頭昇任を視野に入れていたのかもしれない。

○広域人事期間中に苦労したこと

1年目は想像もしたことがないくらいの雪の多さに驚きました。多分、日高管内に住んでいたら一生見ることがない雪の量だったと思います。そして、スキー授業があり、経験のない自分にとっては生徒よりも自分が学ぶ場になりました。3年目は卒業を前に「新型コロナウイルス感染症」により全道・全国的に臨時休校が続き、せっかく3年間持ち上がってきた生徒たちと最後に落ち着いて卒業式に臨めなかったのが最大の後悔です。そのまま日高に帰ってきてしまったので「生徒たちや保護者、先生方とのつながりも中途半端なまま」という気持ちもあります。

授業に関して言うと、岩見沢市内100人程度の先生方や文部科学省の審議官を務められていた樺山教授が来られて授業をすることになった時は、日高では経験できないくらいの緊張でした（上の写真）。

卒業式前日。3年間黒板を見ての給食。
最初で最後の顔が見える給食。（新冠中）



○広域人事のやりがいや魅力を伝えるメッセージ

広域人事で他管内に出ようとするのはとても勇気のいることです。今回は空知に行きましたが、空知の良いところ、日高の良いところを見つめ直せたのはとてもよい経験でした。「どういうふうに先生方に伝えていくか」というのが現在の課題です。

広域人事の制度は教員としての考え方を変えるきっかけになります。ぜひ、制度の利用について考えてみてください。

(広域人事終了者)

氏名	高野 真梨子	現任校	北海道平取養護学校（日高）	前任校	奥尻町立奥尻小学校（檜山）
----	--------	-----	---------------	-----	---------------

○現任校での勤務状況

「特別支援学校と離島との人事交流」の制度を利用し、奥尻町立奥尻小学校で4年間勤務しました。人事交流を終え、北海道平取養護学校に赴任しました。現任校は、小学部から高等部まで74名が在籍している、知的障がいのある児童生徒が学ぶ特別支援学校です。

今年度は、高等部2学年7名の担任をしています。高等部では、生徒一人一人の教育的ニーズや学び方に応じて学習内容等を選択するコース制教育課程を導入しています。作業学習ではワークコースの総合家庭班を担当し、ミシン等を使った縫工作業の指導を行っています。



○広域人事により経験できたこと

人事交流をさせていただくまでは、特別支援学校での勤務経験しかありませんでしたが、小学校での勤務を経験させていただきました。奥尻町立奥尻小学校は、全校児童が46名という離島の小規模校で、単式学級と複式学級、特別支援学級という学級編制を行っていました。4年間、特別支援教育コーディネーターを務めさせていただき、小学校入学前、入学後、中学校進学と幅広い成長段階の教育相談に携わらせていただきました。また、特別支援学級の担任として、知的障がい等のある児童の学習指導を行ったり、通常の学級に在籍する児童の支援を行ったりしてきました。複式学級の授業展開を踏まえて特別支援学級の児童との交流学习を実施したり、校内特別支援委員会を開催したりと、様々な経験をさせていただき、学ぶことが多くありました。

離島のため、医療機関や児童相談所等との連携には困難さを感じることも多くありましたが、道立特別支援学校からの特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業や檜山教育局管内特別支援連携協議会の協力を得ながら、奥尻町の特別支援教育推進についても考えることができました。

○広域人事期間中に苦労したこと

広域人事や離島との人事交流で来ている先生が多く、数年単位で教員が大きく入れ替わることが続いていたため、行事や分掌の引継ぎに苦労しました。交流1年目の冬から新型コロナウイルス感染症が流行し、休校や行事の中止・変更もあったため、コロナ禍前の様子を知る職員がほとんどいないという状況もありました。

異動に際しては、年度末の引っ越し業者選定には大変苦労しました。離島というだけで断られる業者が多いほか、フェリーへの車両積み込み予約がいっぱいになってしまうこともあるため、日程調整等が非常に大変でした。

○広域人事のやりがいや魅力を伝えるメッセージ

奥尻町では、町の方が学校の教育活動に協力してくださることが多くありました。漁師さんに、わかめの種付けや収穫の体験、イカ釣り漁船の見学をさせてもらったり、奥尻和牛の放牧場で写生をさせてもらったりと、地域産業を児童たちと一緒に学ぶことができました。町全体で子供たちを見守る温かい雰囲気を感じました。



(広域人事終了者)

氏名	木野田 香織	現任校	七飯町立藤城小学校（渡島）	前任校	厚沢部町立厚沢部小学校（檜山）
----	--------	-----	---------------	-----	-----------------

○現任校での勤務状況

藤城小学校は、開校 93 周年を迎える、全校児童 80 名の学校です。特認校指定を受けているので校区外から通学している児童も少なくありません。着任して 1 年目の今年は、1 年生 8 名の担任をしています。高学年を担当することが多かったのも、とても新鮮な気持ちで毎日を過ごしています。校区内では花卉栽培が盛んに行われているほか、食品工場やワイン工場などもあり、地域の方の協力を得ながらどんな学習ができるか考えるのも楽しいです。校務分掌は授業改善グループで教務を担当しています。これまで担当した経験がほとんどないため、先生方の協力を得ながら業務を進めています。



○広域人事により経験できたこと

【小規模校での勤務】初めて単学級校での勤務となりました。1 学級の児童数も 20 人前後で、毎日学級全員の児童と言葉を交わすことができました。行事の内容や学習の進め方など、今まで学年団で業務分担していたことを全て自分で行うことになりましたが、その分、今まで以上に児童の言葉に耳を傾け、思いを実現する活動に取り組むことができました。全児童を全職員が把握しているので、全職員で児童を見守るという理想的な環境でした。

【学習指導】分掌が学力向上部ということもあり、思考力、判断力、表現力等を高める授業づくり、個別最適な学びと協働的な学び、1 人 1 台端末の効果的な活用法など、今求められている課題について研究を深めることができました。これまでは生徒指導に多くの時間を割いていましたが、学習指導について考える時間が十分に確保できたことが広域人事最大の収穫です。

【I C T】厚沢部町は I C T 教育に力を入れており、環境の整備も進んでいました。小学校 4 年生までは iPad、5 年生からは surface が導入済みで、教室には電子黒板が設置され、ロイノートを活用した授業を行ったり Teams を活用して町内外の学校と交流したり、様々なことを試すことができました。ICT 活用の良し悪しは使ってみないとわからないので、貴重な経験となりました。



○広域人事期間中に苦労したこと

苦労したことは、ただ一つ。冬の通勤です。ホワイトアウトを初めて経験しました。幹線道路が通行止めになり、迂回して帰宅したときは、冬の北海道の厳しさを痛感しました。また、苦労ではないのですが、コロナ禍での異動だったので、地域と連携した行事や学習がほとんど経験できなかったことはとても心残りです。

○広域人事を希望する教員へのメッセージ

複式校を経験したいという希望は叶いませんでしたが、広域人事の制度を活用して檜山に行かせていただき、



私自身のキャリアとしては十勝、渡島、檜山の 3 地域で勤務したことになります。それぞれの地域や学校の良さを肌で感じることはもちろん、たくさんの児童や先生、地域の方々との出会いがそこにはありました。たくさんの出会いによって視野が広がり、今までよりも児童観、教材観、指導観に幅が出たように思います。一人で研鑽を積むことも大事ですが、出会いにより、それが 10 倍、100 倍…にも膨らむと感じています。広域人事は、自分が今もっているスキルを効率よくアップさせる一つの手段になると思います。